

【市内中学校の部 大賞】

海底にあるモノ

鳥羽市立鳥羽東中学校 二年

藤田 季里

海の一番深いところはどんなところだろう
手のひらで海をすくってみると

海は青を失い

ただの透明な水になって

私の手からこぼれ落ちた

波は一瞬で波紋を消した

小さな波紋を大きな波で

海は何もなかったかのように

青をとり戻す

片足を海の中につっこんでみると

水の中で私の足がうっすらと透け

ちよつぴり青くなる私の足

だけど足をひきぬくと

透明な水がつま先をしたたるだけだった

波は一瞬で波紋を消した

小さな波紋を大きな波で

海は何もなかったかのように

青をとり戻す

小さな私に海は大きすぎたのだ

私がどんなに体を海にうずめても

海は知らんぷりして笑うんだ

空のように大きくないと

海を包む事はできない

海にはたくさんの生き物がいる

浅くても

深くても

私はその中のただ一匹にすぎないのだ

海と人の心と似ているから

そう簡単に海は私を深くにに入れてくれない

ならば

初めは浅くていいじゃないか

小っぽけな私に入る所があるのなら

青くなくたっていいんだ

私はもう一度海に入った

今度は頭から潜る

迷わず手を進める

どんどん深みへ落ちていく

何がしようがかまわない

誰も知らない海の底へ